ト11

2025（令和７）年度入学試験問題

国　　語

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で19ページ（問題一・二）です。
   ネットワーク情報学部では，問題一のみを採点の対象とします。
   問題二は，ネットワーク情報学部のみを受験する方は解答しなくても結構です。
   同一日に他の学部を受験する方はすべてを解答してください。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は，設問に従って，該当する解答欄にマークしてください。**なお，すべてマーク解答問題です。**解答にあたっては，必ず**黒の鉛筆またはシャープペンシル**を使用してください。
6. **解答用紙**に記入するときには，下記の点に注意してください。
   (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し，該当するマーク欄を正確にマークすること。
   （機械処理上，非常に重要なので誤記のないよう注意してください。）
   (2) 訂正する場合は，プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
   (3) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
   (4) 解答用紙は，折り曲げたり汚したりしないこと。
   (5) 解答用紙の解答欄をマークするときは，次の（例）のようにマーク解答欄の番号をぬりつぶすこと。

（例）　③と解答する場合

マーク解答欄									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後，問題冊子は持ち帰ってください。

ト11

問題一（現代文）

全員が解答してください。

ト11

問題一　次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

ト11

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

ト11

※問題文については著作権の関係により掲載できません。

（小池昌代「別離」による。ただし設問の都合上、一部改変した）

問一　傍線部W「母」を詠んだ短歌のうち、作品と作者の組み合わせが**正しくないもの**を次の①～⑦の中から一つ選び、解答欄 1 **にマーク**しなさい。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

※選択肢については著作権の関係により掲載できません。

問二　傍線部X「梅」を使った故事に「梅を望んで渇きを止む」があるが、その意味として正しいものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 2 にマークしなさい。

① 美しい梅を眺めると、幸福な気持ちで心が安らぐ
② 干ばつを防ぐために梅をたくさん植え、土中の保水とする
③ 梅を次々と食べると、のどの渇きが収まる
④ 梅の実の味を想像して、のどの渇きをこらえる
⑤ 絵に描いた梅を見ていると、口中の唾が引っこむ

問三　傍線部Y「倹約」の対義語としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 3 にマークしなさい。

① 奢侈　② 質実　③ 吝嗇　④ 始末　⑤ 節約

問四　傍線部Z「摂理」の類義語としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 4 にマークしなさい。

① 規範　② 理法　③ 結果　④ 方便　⑤ 道理

ト11

問五　傍線部A「梅自身の「催促」と感じられた」とあるが、その理由としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

① 梅酒のために梅の実をさがしていると、熟成して黄金に輝く梅の実が、その美しさで目を惹くように次々と地上に落ちてくるから

② 地上に落ちている梅の実は、皮が破れ、傷つくことを梅の実自身が恐れるかのように黄金に輝いて、存在を主張して拾い続けることを促すから

③ 梅の実を毎朝のように拾うという行為をしていると、熟した黄金の梅ばかりでなく木についているまだ青い実までも目についてきたから

④ 梅の実を毎朝のように拾い続けていると、成熟の黄金色や朝陽に輝く青色に感動し、次から次へと梅がほしいという欲望が強くなってきたから

⑤ 毎朝梅酒のために梅の実を拾っていると、母から娘へとつながる梅酒造りという行為を梅の意志によって促されているように感じられたから

ト11

問六　傍線部B「引力と浮力という、真逆の方向に向かう力が調和していた」とあるが、その説明としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

① 大瓶に差し込む光によって酒はますます重みを増して映り、氷砂糖の溶け出してゆく揺らぎは梅の実のエキスを酒にしみ出させる効能がある

② よく乾いた梅の実は、黄金色の酒がたっぷり詰まった大瓶の中で軽やかに泳いでおり、両者の対比するその姿は見事な美しさである

③ 酒には酒の落下志向があり、梅の実には梅の実の浮上感覚があるため、そうした上下感覚のずれが梅酒の熟成をもたらしている

④ 氷砂糖が敷きつめられた大瓶は重々しく台所に鎮座し、梅の実は酒の中で軽やかに浮いているさまが、梅酒の熟成する様子を見事にあらわしている

⑤ 梅の実は長い時間をかけ酒の中に浮いて溶け出してゆくが、大瓶は時間の流れに抗してどっしりとその存在を台所に主張している

問七　傍線部C「そんなことが気になる」とあるが、その具体的な例として**適当でないもの**を次の①～⑤の中から一つ選び、解答**欄** 7 **にマーク**しなさい。

① 梅の実が落ちる瞬間にどんな音がするのだろうか
② 冬の公園ではどのようにして落雪が起きているのだろうか
③ 梅が落ちるときに木琴のような響きがするのはなぜだろうか
④ 枝が梅の実を落とすのだろうか、実の方から枝を離れるのだろうか
⑤ 植物も生きる上で納得して実を落とすのだろうか

問八　空欄 D にあてはまる文としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 8 にマークしなさい。

① 落ちた梅は見事な完成形だ
② ベルベットのような手触りの落果が欲しい
③ 青梅が落果に勝る
④ 梅酒には黄金に輝く落ちた梅が必要だ
⑤ 手でもいだ青梅こそ完璧である

問九　傍線部E「落下した梅について書くうち、なぜかあの時の記憶が蘇ってきた」とあるが、その内容としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 9 にマークしなさい。

① 自然の重力によって落下した梅の実が必ずしもいい梅酒にならないように、結婚するつもりの恋人とは自然な別れが難しかったと悟った

② 梅の実と梅の枝の納得した別れ方について考えていたら、昔の恋人との別れ方に離層にあたるものがなかったことに気づいた

③ 若いころに夢中になって梅の実をもいで梅酒づくりをした記憶が、別れた恋人との楽しかった日々の記憶と重なって思い出された

④ 梅酒を作るために梅の実を拾い熟成を待つ期間は、別れた恋人の思い出を癒す時の経過が必要だったと思い起こさせた

⑤ 心を痛めることなく恋人と別れるには、梅の実が枝を離れるときに吹き荒れる嵐が必要だったと思い至った

問一〇　この文章には「別離」という題がつけられているが、筆者の「別離」に関する考え方としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 10 にマークしなさい。

① 梅の実は時が満ちれば自然と枝と別れ、地に落ち、やがて朽ち果てる。人間もそのように自然と朽ち果ててゆくことを望む。恋人との別離によって、結婚が果たされぬ永遠の約束として胸に刻まれ、やがて忘却の彼方に沈み、もはや強欲な自分が消え去ってしまう境地にたどり着きたいと願うからである。

② 母は毎年のように梅酒づくりに精を出し多くの人を歓待したが、その客人たちはもう来ない。梅酒は時とともに熟成するが、母の姿を見ることはもうない。梅の実と梅の枝との別れは、母と娘の別離の情景を思い出させる。母の思い出を胸に、豊潤な梅酒の黄金色の輝きを見つめていたい。

③ 母の小さな家での梅酒づくりは人生の儚さをしみじみと伝える。黄金の梅は次々と落ちてくるが、それは梅酒づくりには不可欠な梅の姿だ。私も恋人とのつらい別れを経験したが、それは梅の実と枝の別れを見つめることにより忘れていった。忘却は別離による心の痛みを軽くしてくれたのである。

④ 皮が破れ傷があっても自然に落下した梅は黄金に輝く美しさをもつが、残念ながら梅酒には適さない。輝かしく見える恋人の姿も、約束を果たさぬという裏切り行為によって結婚の相手としては不適格だった。美しさゆえに別離が訪れるという関係性こそ、すべての生あるものの宿命である。

⑤ 梅の実はいつかは時が満ち枝から離れる時が来るという覚悟を持っている。梅酒にされるために無理に青いうちにもがれてしまうこともあるが、本来は納得して落果となり朽ち果てていくことが望ましい。自分も過去のつらい別れを乗り越えた今、いつかこの世とも別れ、静かな生の終焉を待つ気になっている。

ト11

問題二（古文）

ネットワーク情報学部では採点の対象となりません。

ネットワーク情報学部のみを受験する方は解答しなくても結構です。

ネットワーク情報学部以外の学部を受験する方、およびネットワーク情報学部と他学部を併願している方は解答してください。

問題二　次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

かくて二三日、音もせさせ給はず。たのもし(注1)げにのたまはせしことも、いかになりぬるにかと思ひつづくるに、いも寝られず。目もさまして寝たるに、夜やうやうふけぬらんかしと思ふに、門をうちたたく。あなおぼえな(a)と思へど、問はすれば、宮の御文なりけり。思ひかけぬほどなるを、A心やゆきてとあはれにおぼえて、妻戸おしあけて見れば、

見るや君さ夜うちふけて山のはにくまなくすめる(b)秋の夜の月

うちながめられて、常よりもあはれ(c)におぼゆ。門もあけねば、御使ひ、待ち遠にや思ふらんとて、御返し、

ふけぬらんと思ふものから寝られねどBなかなかなれば月はしも見ず

とあるを、おしたがへたる心地して、「なほくちをしくはあらずかし。Cいかで近くて、かかるはかなしごとも言はせて聞かん」と思したつ。

二日ばかりありて、女車のさまにて、Dやをらおはしましぬ。昼などはまだ御覧ぜねば、はづかしけれど、さまあしうはぢかくるべきにもあらず。また、のたまふさまにもあらば、Eはぢ聞こえさせてやはあらんずるとて、ゐざり出でぬ。日ごろのおぼつかなさなど語らはせ給ひて、しばしうちふさせ給ひて、「この聞こえさせしさまに、はやおぼしたて。Fかかるありきの、つねにうひうひしうおぼゆるに、さりとて参らぬはおぼつかなければ、はかなき世の中に苦し」とのたまはすれば、「ともかくも、のたまはせんままにと思ひ給ふ(d)るに、見(注2)ても嘆くといふことにこそ思ひ給へわづらひぬれ」と聞こゆれば、「よし見給へ。塩焼(注3)き衣にてぞあらん」とのたまはせて、出でさせ給ひぬ。前近き透垣(すいがい)のもとに、をかしげなる檀(まゆみ)の紅葉の(e)、少し紅葉(もみ)ぢたるを折らせ給ひて、高欄におしかからせ給ひて、

Gことのは深くなりにけるかな

とのたまはすれば、

H白露のはかなくおくと見しほどに

と聞こえさするさま、なさけなからずをかしとおぼす。宮の御さま、いとめでたし。御直衣に、えならぬ御衣、いだし袿（うちき）にし給へる、あらまほしう見ゆ。目さへあだあだしきにやとまでおぼゆ。

（「和泉式部日記」による）

（注1）たのもしげにのたまはせしこと……これ以前に、宮は女に、みずからの屋敷に迎えるつもりがあることを話していた

（注2）見ても嘆くといふこと……慣れすぎると、相手に飽きられてしまうのではないかということ

（注3）塩焼き衣……慣れてこそ関係は深まるのだということ

問一　傍線部A「心やゆきてとあはれにおぼえて」は、「夜な夜なは目のみさめつつ思ひやる心やゆきておどろかすらん」という和歌の一部を引用した表現だが、そのことを踏まえたうえで、傍線部Aの解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、**解答欄** 11 にマークしなさい。

① 宮のことをずっと気にかけていた私の心が相手に通じて、来訪をうながしたのかと思われて

② 宮に対して手紙の一つも返さずにいた私の頑固さに、宮はびっくりしたのだろうかと思われて

③ 相手のことを思って寝ることもできないのは、私だけではなく、宮も同じだったのかと思われて

④ 相手への思いの深さを心ゆくまで語り合いたいと思っているのは、私だけではなかったと思われて

問二　二重傍線部(a)～(e)についての文法的説明の組み合わせとしてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 12 にマークしなさい。

① (a)形容詞の一部　(b)完了の助動詞　(c)形容動詞の一部　(d)謙譲の補助動詞の一部　(e)同格の格助詞
② (a)形容詞の一部　(b)完了の助動詞　(c)副詞の一部　(d)謙譲の補助動詞の一部　(e)主格の格助詞
③ (a)終助詞　(b)自発の助動詞　(c)形容動詞の一部　(d)尊敬の補助動詞の一部　(e)主格の格助詞
④ (a)終助詞　(b)自発の助動詞　(c)副詞の一部　(d)尊敬の補助動詞の一部　(e)同格の格助詞

問三　傍線部B「なかなかなれば月はしも見ず」の解釈としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 13 にマークしなさい。

① 月の片端だけ見てもかえって心乱れるだけだから、月を眺めるのはやめにした
② 月を見たらいよいよ寝られなくなるだろうと思ったから、月を見てはいない
③ 宮は、私にとって月のように手が届かない存在なので、そのことを嘆いていた
④ 宮のことを思ってゆっくり眠ることができない私を、月は気にかけてもくれない

問四　傍線部C「いかで近くて、かかるはかなしごとも言はせて聞かん」の心情の説明としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 14 にマークしなさい。

① 近くにいながら、なぜ時々和歌のやり取りをする程度のはかない関係になってしまったのかという女の無念
② 近くにいたら、こちらの気持ちを踏みにじるようなつまらないことは決して言わせないのにという宮の憤慨
③ 一緒に住むことで、こうした和歌をもっと親しく、直接に交わすことができるようにしたいという宮の願望
④ 何をどうしたら、もっと二人の距離を縮め、無常の世の中で心慰め合うことができるだろうという女の苦悩

問五　傍線部D「やをらおはしましぬ」の現代語訳としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 15 にマークしなさい。

① 堂々とおいでになれなかった
② 急にいらっしゃった
③ あわただしくおいでになった
④ 人目につかないようにいらっしゃった

問六　傍線部E「はぢ聞こえさせてやはあらんずる」を単語に分けた場合、もっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 16 にマークしなさい。

① はぢ／聞こえ／させ／て／や／は／あらん／ずる
② はぢ／聞こえさせ／てや／は／あら／ん／ずる
③ はぢ／聞こえさせ／て／や／は／あら／んずる
④ はぢ／聞こえ／させ／て／やは／あらん／ずる
⑤ はぢ／聞こえさせ／てや／は／あら／んずる

問七　傍線部F「かかるありきの、つねにうひうひしうおぼゆるに、さりとて参らぬはおぼつかなければ」の説明としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 17 にマークしなさい。

① あなたのもとに来るのは、つねに気恥ずかしい思いがするが、かといってやって来ないとなるとあなたのことが気にかかって仕方がない、という宮の言葉
② あなたが私のところに来てくれれば新鮮な思いがするはずだが、しかしそれまでの間、いつもこうして私が参上するのは人目が気になる、という宮の言葉
③ 一緒にどこかに出歩くと、つねに新しい宮の一面を知ることができるので、誰かに見られたらどうしようとは思うものの、一緒にいたくてたまらない、という女の言葉
④ 一緒にすごしていると、いつも宮と初めて出会った頃のことが思い出されるから、もっと私のところに来てほしい、訪れが待ち遠しい、という女の言葉

ト11

問八　傍線部G、Hは合わせて一つの和歌になるように工夫されているが、その和歌の意味としてもっとも適当なものを次の①～④の中から一つ選び、解答欄 18 にマークしなさい。

① 露は朝日を浴びて消えるほかないものだが、私たち二人の愛はそのようにはかないものとは、つゆほども思えないことよ

② 檀の葉は、おなじ「ま」の音で、男女のまごころをあらわすから、深い心の通い合いが実感できて縁起がよいなあ

③ 露がおりて檀の葉の色が濃くなるように、二人の間に交わされた和歌も情愛のこまやかなものとなったなあ

④ はかない露によって色が深くなった紅葉を見るにつけ、世ははかないものとの思いも深まってきたことであるよ